



NPO日本朗読文化協会

# 朗読ニュース

2010年初夏号

朗読の日  
特集



## 演出家からのメッセージ



飯田 輝雄 (演出家)

先日、インターネットで検索・・・若者言葉で言えば「ググって」みたところ、「朗読」はなんと 366 万件、「朗読会」は 113 万件ありました。今話題の「坂本龍馬」が 363 万件ですから、なんとあの龍馬に勝ってしまったことになりました。まあ、これは比較するための一つの例ですが、いかに全国に大勢の朗読ファンがいて、朗読会があるか・・・数字で知ってあらためて驚きました。

そんな「朗読会」の中でもプロ・アマ交えて総勢 100 名もが参加する一大イベントが、NPO 日本朗読文化協会の「朗読の日」。今年も 6 月 19 日 (ロー [6] ドク [19]) に開催されます。会場はおなじみ銀座の博品館劇場で、19・20 日の 2 日間。

今回も皆さんの舞台を演出させていただきますが、実に様々な方が参加します。3 歳の女の子から学生、主婦、サラリーマン、アラサー、アラフォーもいればアラカンも・・・そして定年後ますますお元気な紳士、80 代の淑女もいらっしやいます。そして様々なジャンルの朗読を舞台狭しと披露します。

・先日亡くなった井上ひさしさんの作品 ・琵琶の生演奏との共演「耳なし芳一」

・外国人も参加する日英バイリンガル朗読、宮沢賢治の「注文の多い料理店」 ・映像と共に楽しむ作品 ・井伏鱒二、芥川龍之介、川端康成、太宰治、菊池寛など、名作の朗読 ・今人気作家の江國香織や浅田次郎などの作品 ・大人のエッセイ、民話や童話、時代小説、泣かせる人情話 ・嫁・姑をテーマにした壮絶な女の闘い話 などなど・・・

今年 1 月に開かれた朗読コンクールの優勝者 (一般の部と学生の部) も参加します。

また「朗読の日」では恒例ですが、最近映画化され話題となった「60 歳のラブレター」のコーナーもあります。

そして今回は加賀美幸子朗読名誉会長が全ステージ出演いたします。児玉朗講師には「声あそび」、蒔村三枝子講師、内藤和美講師にも素敵な朗読を聞かせていただきます。

このように「朗読の日 2010」は前回よりさらにパワーアップして、朗読の深く果てしない魅力を追求します。銀座博品館劇場のステージで「朗読者」も「観客」も一体となって、皆さん一緒に楽しみましょう！

「朗読」をみんなで楽しまなきゃいかんぜよ！！ (by イイダリョウマ?)

## 第 8 回『朗読の日』プログラムより

### 6 月 19 日 (土)

浅霧ひとみ 「あくる朝の蝉」  
照井 恒衛 「群衆の中を求めて歩く」/「街の風景」  
山村 都 「最後の葉」  
坂本 有子 「耳なし芳一のはなし」  
戸村 玲 (朗読コンクール優勝学生) つめたいよるに「デューク」  
原 郁子 「家守綺譚」より「サルズベリ」  
長野 淳子  
菊地 宏 「60 歳のラブレター」  
小川 弘子  
塩田 睦子  
松田 麗子 「屋根の上のサワン」  
白田 敦子 「遙かなるクリスマス」より「あなたは何をしますか」  
稲本 由美子 「おしの」

### 6 月 19 日 (土)

深澤 真理子 「雪国」  
安倍 真壽美 「バリのおばあさんの物語」  
相原 碧子 源氏物語「六条の御息所」  
菊地 宏 森村誠一のふるさと熊谷と最後の空襲  
本間 恵子 「椿山」より「花の顔」  
小金 洋子 「八丈伝」より「あわれ浜路/ふしぎな行者」  
黒川 公代 「姉の結婚」  
高橋 愛子 「百羽のツル」  
小川 弘子 「藪の中」  
オリオン 「まど・みちおの世界」

### 6 月 19 日 (土)

塩田 睦子 「俎橋から 一ほろにが落ご飯」  
近藤 とうこ 「智恵子抄」より「樹下の二人」「千鳥と遊ぶ智恵子」  
土屋 久美子 「花さき山」  
岩瀬 弥永子 「曾根崎心中」～徳兵衛 おはつ 道行  
渡部 玲子 「代筆屋」より「咲くよ桜」  
岡崎 弥保 (朗読コンクール優勝一般) 「朱雀門」  
阿部 義高 「雪おんな」  
葛城 てる子 「藤十郎の恋」  
江澤 晴菜  
班石 あゆみ 「星言葉」  
戸村 玲  
ねじめとしえ 「風姿花伝」  
三上 実枝子 「きりぎりす」

### 6 月 20 日 (日)

大幡 かおり 「懶惰の歌留多」  
市原 タツ子 「露草」  
小林 道子 「瀬戸内の鬼」  
中村 悦子 「仙人」  
松島 那 「ひびけ、チンドン」  
Voice K 「にほんご」「語り女たち」他

### 6 月 20 日 (日)

波川 弘世 「ある不思議な夕方」  
古内 恵美子 「ヴィヨンの妻」  
永井 喜代子 「母の死に化粧」  
佐々木 富紀 「風切る翼」  
五十嵐 和子 「おいらん六花」  
石野 恵子 「布施」  
島崎 晴雄 「おはん」  
望月 鏡子  
松森 世津子 戯曲集「さよならパーティー」より  
志満本 けい 「ともだち」  
小黒 三重子

### 6 月 20 日 (日)

早川 とし子 「わがアイデア母さん」  
寺田 道雄 鉄道員 「ぼっぼや」  
神田 外大 声のこぼの勉強会「注文の多い料理店」日英バイリンガル  
田中 邦子 「銀座カップル」  
宮内 佳代子  
寺田 道雄 「60 歳のラブレター」  
早川 とし子  
安田 綾子  
行田 夏枝 「数へ年」  
宮下 郁子 「高野聖」

# 『朗読の日』座談会

## 震えながら出演した第1回公演

**飯島 晶子 (以下、司会) :** 博品館で朗読の日がはじまってから今年で8年目。今日は出演のきっかけや当時の状況・展望についてみなさんにお話を伺いたいと思います。

では、初回から出演の河崎さんいかがですか。

**河崎 早春 (以下、河崎) :** 当時飯島さんと二人で「朗読の会」をやっていて、二人だけの発表会では寂しいと、情報や仲間を求めていたとき、ちょうど日本朗読文化協会があることを知りました。何もわからず参加してすぐ、二人で博品館にでたのが第1回目でした。当時は一人の朗読時間が長く、二人で続けて読んで50分位でした。自分が企画した朗読では初めて博品館のような大きなステージに立ちました。

**司会 :** 寂聴先生のお話もちろんですが、文化庁長官の河合隼雄さんがご挨拶の後原文で「竹取物語」を読まれたのもとても楽しく印象深いものでしたね。

松島さんや早川さんも初回からですね？

**松島 邦 (以下、松島) :** 児玉朗先生で紹介で初回出演しました。6人のグループ(早川さんを含む)で新聞誌面を語り部として読みましたが、初めての大きなステージと6人の動きの入った舞台を間違えないように必死で震えながらやった思い出があります。



松島さん

**早川 とし子 (以下、早川) :** あら、結構落ち着いていましたよ。

**司会 :** 初めのころは 出演者も会の制作に関してはわからないことばかりでしたので、事務局をはじめ、新潮社の岡田さんが実行委員長をしてくださり 裏方仕事までしてくださりましたね。

**松島 :** お弁当まで買いにいかけてくださいましたよね。

**早川 :** 分からない事は何でも「岡田さん、岡田さん」と頼りにしていましたね。

**司会 :** 思い起こせば、もともとは女優さんたちの博品館公演としての「源氏物語」の朗読がきっかけとなり、より朗読を愛する多くの人々にも朗読の場をという当時の理事長の草苺さんの想いからこの「朗読の日」が生まれたと思います。毎回、細くちいさな身体で凄いバイタリティーとアイデアの方でしたね。ずいぶん私たちも元気づけられましたね。

**早川 :** おっしゃるアドバイスは的確でしたね。



## 読み手と聴衆との世界

**司会 :** では二回目から出演された稲本さんの印象はいかがでしたか？

稲本さん



**稲本 由美子 (以下、稲本) :** 当時の演出の成瀬芳一先生が事前に出演者を集められた会で「朗読の日は聴衆の皆様から三千円頂いて行う舞台ですから、そのところをキチンと頭に入れてやって下さい」との発言を聞きしびれました。お金を頂戴して出演する事が最初だった事もあり成瀬先生の言葉が物凄く印象深くバーンと身体に響きました。

**松島 :** 当初制作・演出側と出演者と司会との初顔合わせがあり、次に本読みがあって舞台稽古がしっかりあって本番になるのですが、当初は途中色々な問題も持ち上がりましたね。

**司会 :** いろいろな朗読の可能性を模索していたとき、一人で読むのが朗読であると主張する方もあり、グループでの朗読もよしとする私たちと熾烈な熱き論争になったんですね。ただ舞台に立てば、読み手と聴衆との世界になるのが朗読なのですから、それもまた良き思い出となりました。

**松島 :** 新潮社(岡田さん)会議室を開放していただき毎週出演者が質問したり疑問を解決したりの話し合いをやりましたね。

**司会 :** 石野さんは何回目から参加されましたか？

**石野 恵子 (以下、石野) :** 第5回から2回参加しています。私の長年かかわっているコーラスの舞台に比べ、照明が暗いなあ(聴衆側も)と感じました。いつも別なイベントと重なって出演できなかった事が多いのですが。

**司会 :** そうでしたか、石野さんのインパクトが強いので、もっとたくさん出演されたかと思ってました。(笑)事務局の制作・ゲスト招待の体制から 会員が主体になっての実行委員会中心に転換したのは何回目からでしたっけ？

**松島 :** 5回目ですね。そして、城所理事長が実行委員長をされた6回目位からゲストを呼ばないで自分たちだけの力でやろうよという機運が盛り上がってきました。

**稲本 :** そういえば、2回目に加賀美さんがゲストでいらして、その舞台総てを聴いてくださり、「一人20分は長い」との

ご意見。3 回目の途中からなるべく 15 分にとの指示があり、努力した記憶があります。

**司会：**時間が短くなったことで 出演人数が増えましたね。以前には希望者全員は無理でお断りしたこともありました。いろいろな歴史がありますね。

では、ゲストが出てくださった時とそうでなくなってからとでは、会員自身またお客様にどんな変化があったでしょうね？

**松島：**芸能人のゲストが出演していた時は、私たちのグループ意識にも付加価値が付いた事にもなり、同じ日に出演出来るかどうかチケット販売にも大きな影響がありました。

**司会：**ゲストの出演がなくなって、お客様の人数はどうになりましたか。

**松島：**結果的にあまり変わらなかったと思います。

## 博品館という大舞台

**司会：**博品館でなくてもという意見があったこともありますが、会場についてはいかがですか？



**稲本：**友人知人に、知名度のあるしかも「銀座」にある「博品館劇場」に出演したら、凄いわねと言われました。

**司会：**あの頃は博品館に出たいから朗読協会へ入ろうというムードが確かにありました。

**早川：**出演料金の問題で費用の安い区民センターへ移ることが検討された事もありましたが、「博品館」に落ち着いた経緯もあります。

早川さん



**松島：**やはり「銀座」。「銀座」ですね。

**司会：**やはり博品館には、歴史ある会場に宿る「魂」みたいなものもありますね。

**稲本：**出演料が高いという意見もありますが、チケットを売れば逆にほとんど自己負担なくても博品館に出場できるということですし、裏方・スタッフも自分たちで、又チケット販売・広告集め等もみな自分たちでやっているの、あの値段でできるのだと思います。

**河崎：**協会には多彩なメンバーがおり、企画が得意な方、まとめるのが上手な方、元広告のプロ・・・と心強いですね。

**司会：**また、出演メンバーが東京だけでなく、遠くは北海道、秋田、仙台、四国、大阪などからもあり、このように広がりのあるイベントは手前味噌ですが、他には、なかなかありませんよね。今回は、出演者延べ 100 人。これまで毎回平均 50 人としても 7 回で 350 人。合計で 450 人・・・。ギネスブッ

クに登録してみようかと阿部義高実行委員長が笑っていましたよ。

## 今後の展望について

**司会：**最後にこれからの博品館のステージをどのように展開していきたいかについていかがですか？

河崎さん



**河崎：**協会にいる方は、ひとりひとり異なった環境で朗読と出会っています。例えば、音読のボランティアをやった方、プロも アマチュアもあり、これから初めて読む人もいます。他の朗読会を見ると、一人の先生の色に統一されたものになっていますが、協会はそうでなく、アカサあり、舞台の人あり、奉仕朗読の人あり、読み聞かせの人あり、いろんなタイプの朗読があってそれで良いのではないかと、ひとつの形に集約していく必要はなく、それぞれの考えでのびのびと朗読をやっていく。全然違った分野の人たちが集まって、年に一度の博品館『朗読の日』であることがとても素敵だと思います。今後もひとつの色になることを避け、バラエティがあって聴くお客様も楽しめる、そんなユニークな朗読会であってほしいと思います。

**稲本：**多様な方が多数出演され楽しい今回の『朗読の日』も大変結構ですが、一方でお金を頂いて出演していることを再確認のうえ、一層練習に励むこと、衣装などにも配慮する等お客様に十分満足してもらえるような舞台にして行きたいと思っています。

**石野：**最近ますます充実して、皆さんよく勉強され、演出の変化が加わって楽しく聴ける会になってきたと思います。只、レベルがアップすることもあり、朗読協会員の中でも気後れして参加をためらう人もあるようです。もっと気楽に勉強できる（例えば朗読アラカルトのような）催しの充実と共に発展していったら、と思います。

石野さん



**司会：**本当にいろいろな方々のご協力をいただいて成り立つこの『朗読の日』。今年からは 朗読名誉会長として加賀美幸子さんが参加して下さることになり、より魅力的な会になっていくと思います。

また演出の飯田さんもいつもおっしゃるように、会場に足を運んで下さる方々も楽しめる朗読の祭典であることを目指して、これからも 10 回 20 回と回を重ねていきたいですね。石野さんのように、美しく年を重ねるためにも、朗読しましょう！みなさん、ありがとうございました。

司会の飯島さん



## Interview

## 「博品館朗読の日」に寄せて

志満本 けい 6月20日(日)E ステージ出演



昔、役者をやっていました。入っても70～80人ほどの芝居小屋が好きでした。そこには客席と舞台とが一体となってできあがる空間があり、連帯感があり、感動の共有がありました。人の温もりを感じられるそうした素朴な小屋に足を踏み入れると、今でも胸がどきどきしてきます。

座席数 381 の博品館は一見それとは対極をなす劇場かもしれません。銀座という老舗ひしめく街にしっかりと根を下ろした由緒ある芸能の殿堂。幕が開くと演じ手を美しい明かりの渦が取り巻き、観客はやさしい音に包まれて、いつとき下界を忘れさせてくれる夢の城館とでも言いましょうか。

ところが2年前に初めて博品館劇場の舞台に立ったとき、ちょっと意外な感に打たれました。博品館は城と言ってもとても居心地のよい応接間の趣を併せ持つ身近なお城だったのです。小さな芝居小屋での昔の体験が何倍にも増幅されてよみがえる思いでした。

朗読と一口に言っても多種多様です。それをご紹介できる“朗読のお祭り”の場として博品館はぴったり。でも、もし朗読を好きになってくださったら、今度はぜひ小さな小屋での朗読会にもお運びいただけたらと思います。きっとまた異なる感動が待っているはずですから！

## Interview

## 『朗読の日、初舞台』

島崎 晴雄 6月20日(日)E ステージ出演



宇野千代先生が10年間の歳月をかけて書いた『おはん』は亡き父の病床で私が初めて朗読した作品でもありました。全編朗読することはかなわずに父は亡くなりました。この作品の方言の美しさ、語り朗読の楽しさ、そして、父が最も愛したこの作品を博品館という最高の舞台で表現出来ることを幸せに感じています。朗読とは、楽しいものでありますが、作品のイメージを壊してしまうのではないか、という怖さもあります。しかし、宇野千代先生が苦勞して作り上げた作品を多くの皆様に聴いて頂くことの幸せに感謝し、皆様に、この作品の素晴らしさを伝えることが出来たらと思っています。

最後に宇野千代先生に敬意を表し、『朗読の日』のために著作権の快諾を下された宇野千代事務所様、新潮社様、『朗読の日』スタッフの皆様方、ここまでご指導頂いた先生方に深く感謝し、また朗読ボランティアグループ『かもめ』、『八重洲朗読会』の一員として恥じぬよう、そして本日お忙しい中、ご来場下さったお客様のためにも、朗読は楽しいと思っておりますように、精一杯、務めたいと思っております。

5万部突破!!

「人生、いつだってこれから。朝はかならずやってくる」……  
トヨさんの感性と生き方に、  
各地でたくさんの共感が生まれています

声に出して読みたい

白寿の処女詩集

柴田トヨ著

くじけないで



私は朗読ボランティアをしています。新聞ですとトヨさんに注目していました。早速、今月みんなに読んであげたいと思います。(70歳・女性)

人間、誰でもくじけそうになる時がある。夫が手術中に待っている間、この本を手離さずに読んでいた。命の大切さ、生きる勇気を学びました。(72歳・女性)

次女から32回目の結婚記念日のプレゼントでした。長女の結婚を控えて何となく落ち着かない私の心に、いい風が吹きあたったかい陽が射しこんだような気がしました。(54歳・女性)

本屋さんで手にしたとき、涙があふれてきました。私も90歳になったとき、トヨさんのように「生きていてよかった」と思えるよう頑張ります。(40歳・女性)

まず、1000回は声を出して読んで。そしてパソコンにすべて打ち込んだ。家族で回し読みをしています。(59歳・女性)

生きていくことの素晴らしさ、身近な人の大切さ、何げない生活や自然のいとおしさに気づかせてくれます。(37歳・男性)

産経新聞「朝の詩」で話題に！  
NHKラジオ深夜便  
「列島インタビュー」で紹介！



1000円(税込)  
ISBN 978-4-87031-992-9

飛鳥新社

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町3-10 TEL 03-3263-7770 FAX 03-3239-7759

## 「第六回かもめ朗読会」を終えて

3月14日(日)2時より高輪区民ホールにて行いました。当日はお天気にも恵まれ、朝日マリオン、東京新聞、定年時代、港ボランティア情報に掲載された事もあり、来場者数は約150名でした。1部の実践コーナーではお客様も参加していただき、特に「ガーナ」では会場全体が沸きました。2部のミニ朗読会は皆さんリラックスして聴いてくださったようで、時々笑いもあり、予定時間20分超過したにもかかわらず最後まで沢山の方がいらっしゃいました。四季の歌を歌った後、客席に降りていった私たちに会場から拍手が起り、感激しました。初めから企画など、皆で意見を出し合い作り上げ練習をしてきました。大変でしたが十分報われました。お客様を含め参加した全ての人に感謝！(稲本 由美子)



## かもめ第3回総会

4月6日、かもめ第3回総会が開かれた。何時もより緊張した面持ちの皆さん。最初に活動報告と収支決算報告。定例会、勉強会、訪問に加え三つの朗読公演に挑んだ一年だったが、各実行委員を中心に準備と練習に励み夫々に好評を得、朗読力も上がったと確信している。次に新年度の役員選出承認。活動計画案は前年の活動を継続発展させていく方針。更に予算案の提示。本年より会計が協会に一本化されることについての説明。会計係より一年間の訪問交通費が細かく算出され、全員に支給された。本年も楽しく又一丸となってボランティア活動、朗読の修練に力を入れていきたいものと思う。(松島 邦)

### 第六回かもめ朗読会 アンケート結果から

【2010年3月14日開催/当日入場者数:約150名/アンケート回収:65通】

- \*施設を訪問される際の工夫の様子などがよく分かり楽しかったです。
- \*盛沢山でとても楽しかったです。「読み聞かせ」をさせてもらっている私にとって大変参考になりました。
- \*朗読は長い作品より短めの方が良い。「ガーナ」は楽しかった。
- \*なかなか良かった。会場と舞台が一体となる工夫はとても好感が持てた。
- \*聴きに来たのにやらされてビックリしました。ただ感じるだけが歌わせられてしまいました。ですが、かもめのかたの暖かさ、優しさ伝わってきました。
- \*言葉の力を感じました。朗読ボランティアを私もしてみたいくなりました。
- \*それぞれとてもよく工夫されていて、皆様生き生きと活躍なさって素晴らしいです。
- \*言葉の大切さをあらためて感じ又それを伝える難しさを感じました。楽しかったです。

プロフィール  
片山ユキヲ 神戸生まれ。代表作は「花もて語れ」(小学館)のほか「空色動画」(講談社)。好きな小説家は宮沢賢治、泉鏡花、江戸川乱歩、夢野久作。

## 朗読をテーマとしたマンガ 連載開始!

小学館の高島様、作家の片山様が私の所に見えて、当協会の活動、主旨など大変熱心に取材をされ、又当協会の講師の方にも取材をされ、その内容をしっかり組込んだ「スピリッツ」の朗読物語「花もて語れ」という癒し系マンガが連載されることになりました。毎号その巻頭には当協会の名前、講師名(取材を受けた)が必ず掲載されます。この本で朗読に縁の無かった方にも朗読に振り向いて戴けたらと、願っています。(理事長 城所ひとみ)



### 「花もて語れ」あらすじ

想像力は豊かだが、気が小さくて声の小さい佐倉ハナ。7歳の時に両親を亡くして、地方に住む叔母に引き取られたハナは、そこで教育実習生に朗読の才能を見出され、朗読の手ほどきを受ける。しかし、その後は朗読と接する機会はなく、再びハナが朗読と出会うのは、22歳になって上京し、朗読教室を偶然見つけた時だった。

©片山ユキヲ/小学館・月刊!スピリッツ連載中

# お知らせ

## ● 総会のお知らせ

下記のとおり「定例総会」を開催いたしますので、万障お繰り合わせの上、ご出席下さいますようご案内申し上げます。

日時： 2010年6月29日（火）午後2時

場所： 港区赤坂区民センター

東京都港区赤坂4-18-13 赤坂コミュニティーぷらざ内

Tel:03-5413-2711

## ● 認定講師試験について

下記要領にて実施いたしますので、ご希望の方は8月13日（金）までに事務局へお申込願います。詳細は事務局までお問い合わせください。

要件：児玉、壤、成瀬の3朗読教室受講済みの会員

試験日：9月（詳細未定）

試験：模擬朗読教室の講師を演じて頂きます。

それ以外の特別な試験は行いませんが、日々の朗読教室での勉強状況・成果・適性等を十分考慮して判定いたします。

## ● ホームページのリニューアル

5月より新ホームページ

(<http://www.rodoku.org/>) を立上げましたので、ご覧願います。

また、「朗読」、「朗読教室」などのキーワードにより当協会のホームページを検索できるようになりました。



## 会員情報

● 2010年2月～4月に入会された方は以下の方々です。  
青山芳美、赤間立枝、北田久子、中村美智子、三上実枝子（敬称略・50音順）

● ご寄付：田村誠一様、一葉勉強会、城所ひとみ様、新年会参加者有志、松野正義様よりご寄付をいただきました。

## 編集後記

● 今号は、協会員と博品館の「朗読の日」のお客様全員にお配りする臨時号ということで作業をすすめました。最初のページの「演出家からのメッセージ」は6ステージ全ての内容が分かりやすく書かれております。また、座談会も初回からの参加者による歴史的証言を掲載できました。「地方からの発信」は今回お休みさせていただきます。ご感想・ご意見お待ちしております。（早川とし子）

● 5ページで紹介した朗読マンガ「花もて語れ」が大きな反響を呼んでいる。「朗読の魅力 マンガ発、囲碁、書道に続き・・・若者に届け」のタイトルで5/27東京新聞に大きく掲載されました。朗読文化・芸術の広がりを感じます。また、4ページの広告、柴田トヨ著「くじけないで」は5/22八重洲朗読会で一部朗読され評判になり、本も当日完売しました。（事務局）

## イベント情報

### 「声に出す平和への祈り」

港区平和都市宣言祈念朗読会

日時：平成22年8月15日（日）

開場：13：30 開演：14：00

会場：港区高輪区民センター 1F 区民ホール

共催：港区・NPO 日本朗読文化協会

内容：一大空襲から65年、鎮魂を願う平和への祈り

○戦争体験者のお話（2名）

○コーラス（グリーン・フラッシュ）2～3曲

○朗読「ビルマの竖琴」（乾 宣太郎）

○献読

☆☆当日裏方ボランティア募集☆☆

ご希望の方は事務局までお問い合わせください。

担当：宮内

### 「第5回朗読コンクール」

日時：平成23年2月6日（日）

会場：赤坂区民センターホールで開催

### 講演会「三大作家（柴田錬三郎・今東光・開高健）の編集者として」

日時：7月12日（月）1：30開演（予定）

会場：高輪地域開発型集会所（予定）

参加費：¥1000

講師：島地勝彦氏（元「週刊プレイボーイ」編集長）

主催：NPO 日本朗読文化協会 近代文学を読む会

※要申し込み。準備の都合上できれば6月30日までにお申し込み下さい。

お申込み / お問い合わせ：渡部 tel/fax 03-3326-0615

### 朗読会 樋口一葉を読む「にこりえ」

～原文の美しさにふれてみませんか！！～

日時：7月23日（金）1：30開演

会場：台東区立一葉記念館

朗読：一葉勉強会（小川弘子・木村加代子・坂本有子・松島邦）

主催：NPO 日本朗読文化協会 一葉勉強会

入場無料（但し入館料¥300）準備の都合上できれば事前にご連絡お願いいたします。

連絡先：坂本 tel/fax 03-3556-3020

### ○飯島晶子さんが出演します。

6月13日の鎌倉巨福能「朗読で聴き能で観る伊勢物語」

8月7日～11日被爆ピアノ朗読コンサート「未来への伝言」

東京・茨城・秋田・大館で公演！（秋田で公演は、秋田

会員安倍眞壽美さんの協力のおかげで開催の運びをなりました）

朗読ニュース 2010年初夏号 発行日 2010年6月10日

発行 NPO 日本朗読文化協会 理事長 城所ひとみ

〒107-0052 東京都港区赤坂3-8-8 赤坂フローラルプラザビル3F

TEL:03-3584-4451 FAX:03-3584-4452

E-mail:np-rodoku@rodoku.org <http://www.rodoku.org/>

# 瀬戸内寂聴 訳「源氏物語」



## 源氏物語 上原まり

瀬戸内寂聴 訳

千年前の王朝の世界へ誘います

- ◆ 空蟬・夕顔  
■ KICG15070
- ◆ 明石・松風・薄雲  
■ KICG15071
- ◆ 若紫(上・下)  
■ KICG15072
- ◆ 紅葉賀・花宴  
■ KICG15073
- ◆ 葵(上・下)  
■ KICG15074
- ◆ 玉鬘(上・下)  
■ KICG15075



好評発売中

CD全6タイトル  
定価・各2,000円(税込)



## 源氏物語

瀬戸内寂聴 訳

心と心が響きあう朗読の魅力

- 朗読：NPO日本朗読文化協会  
宮崎弥生・秋山雅子・岩瀬弥生子  
福田雅世・飯島昌子・安倍眞壽美  
坂本有子・加藤敏子・松島 邦
- ① 桐壺 ① 末摘花
- ② 藤壺 ② 朧月夜
- ③ 空蟬 ③ 六条の御息所
- ④ 夕顔 ④ 明石
- ⑤ 若紫 ⑤ 源氏物語の魅力

好評発売中

KICG-5068~69  
CD2枚組  
定価3,000円(税込)

【第42回】日本レコード大賞[企画賞]受賞作品!

## 昔話ふるさとへの旅

21世紀へつなげたい「ふるさとの昔話」。  
全国47都道府県を地元の言葉で現地録音。

全47タイトル  
好評発売中  
各定価 ¥2,000(税込)

「温かく、優しく迎えてくれる  
「ふるさと」がいろいろあります。」



(CD全47タイトル) ■KICG-3181~3227 ジャケット表紙絵：鈴木ひろえ

市原悦子さんのナレーションで始まる「昔話」。

7年の歳月をかけて現地の語り手によって、生の声を  
現地収録いたしました。貴重な伝承文化遺産である「昔話」は、  
大人や子供達にとって大切な「心のふるさと」です。

7年の歳月をかけて現地で収録した全国47都道府県の「ふるさとの昔話」の数々。  
かつて「昔話」は、子供達への楽しみや教訓、日常生活意識を反映しながら語られて  
来ましたが、情報文化の発達した今日、「昔話」は大変貴重な日本の伝承文化遺産とな  
っています。  
このCDでは全国のそれぞれの地域に昔から伝わる「昔話」を中心に、現地の語り手によ  
って地元の言葉で現地収録しました。  
大人や子供達にとっていつまでも「心のふるさと」として、今後私達の生活の中で育て  
ていきますことを、心から願っています。



全65タイトル好評発売中!

Roudoku Series

## 朗読CDシリーズ心の本棚

[第一弾]

[第二弾]

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込) CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

[第三弾] 日本の詩歌

CD全15タイトル 各¥2,000円(税込)

[第四弾] 名作を聴く

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込) / 2枚組各¥3,500円(税込)

[第五弾] 日本人のこころと品格

CD全10タイトル 各¥2,000円(税込)

■詳しい資料をご希望の方は キングレコード株式会社 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 ストラテジックマーケティング本部 制作第二グループ 03-3945-2119

キングレコードの朗読CDはお近くのレコード店でお求め下さい。又は下記へ直接お申込み下さい。

●下記によるご注文の商品の送料(¥600)はお客様のご負担となります。

フリーダイヤル 0120-340-670 インターネット <http://www.kingrecords-eshop.jp> (キングレコード・イー・ショップ)

KING RECORDS

F A X 03-3945-9086 ハガキ 〒112-0013 東京都文京区音羽1-2-3 キングレコード(株)内 キングダイレクトアクセス行

\*キングレコードの情報は <http://www.kingrecords.co.jp>

h!samaTV